



セミナー

Proferamus jubilo 2025 第6回

2025 年 7 月 26 日(土) 13:00 より 15 歳以下の方向け(どなたでもご参加頂けます。)
コンサート I/II のみのご参加も可能です。

この会はラテン語、並びにラテン語の直接の子孫であるフランス語、イタリア語等を通して西洋音楽の源流に少し触れてみようというものです。今回は“Te Deum laudamus”の中の1つの文を読み、小さなバロックオーケストラと共に歌ってみます。

- ☆ ラテン語は音節単位 (これはフランス語やイタリア語も同じです。) 基本的には一つの音節が一つの音符に対応します。
- ☆ ラテン語のアクセントは単語の後ろからある距離におかれます。具体的には後ろから 2 音節目、あるいは 3 音節目となります。この事が音楽に大きく影響します。
- ☆ 単語の頭ははっきりと始めましょう。文(フレーズ)の頭はもっとはっきりと始めましょう。

場所 聖グレゴリオの家 聖堂 (ロビーに受付を設けます。)
宗教施設としての注意点がございます。これについては当日ご連絡します。

募集人数 35 名 自由献金 当日献金箱を設けます。
15 歳以下の方は下記コンサートIIにチェンバロ独奏、歌、ヴァイオリン等でご参加下さい。
楽器自由、曲目自由(ピアノは使えません。)
チェンバロと歌やヴァイオリン等の合わせをするときはピッチ a=415Hz(ピアノより半音低い)にご留意ください。
八王子にてチェンバロの事前練習ができます。
通年で月一回八王子にてオーケストラと合唱の練習をしています。

◇当日のスケジュール概要 (一部変更となる場合があります。コンサートI/IIは14時30分ごろスタートを予定しています。)

☆10:00 よりチェンバロ独奏、オーケストラ、オルガン独奏のリハーサルをします。☆



13:00 ガイダンス

13:10 ラテン語等の読み 今回のラテン語テキストは裏面にあります。
その後合唱練習

14:10 一休憩ー オーケストラ準備

14:30 コンサートI ラテン語で歌ってみましょう。

一部不足するパートがあるかと思いますが。どうぞご了承ください。

Michel Richard de Lalande (1657 – 1726) Te Deum laudamus extrait

15:00 コンサートII

オルガン独奏(松本いずみさん)

Giovanni Bononcini(1670 – 1747) “Voglio piangere”, La Maddalena a’ piedi di Cristo (1690)

Jean-Baptiste Lully (1632 – 1687) Ouverture, Psyché

Marin Marais (1656–1728) – Furukawa Ouverture, Alcione

Jean Baptiste Lully: Passacaille, Armide (以上の曲目は変更になる場合があります。)

チェンバロ独奏他

15歳以下の方のチェンバロ等の演奏

17:00 までに終了 (掃除片付け、忘れ物チェック)

(18 時より vespers あり)

Tē ergo quaesumus, tuīs famulīs subvenī:

quōs pretiōsō sanguine redēmisti.

("Te Deum laudamus")

We therefore pray thee, help thy servants:

whom thou hast redeemed with thy precious blood.

参考; nominative 等の名称の由来を考えてみました。

Deus		
Second-declension, noun (irregular).		
nominative	Deus	nominative←nomen ("name")
genitive	Deī	genitive←genus? ("birth", "origin")
dative	Deō	dative←dare (与える格)
accusative	Deum	accusative←accūsō ("to blame""accuse")
ablative	Deō	ablative←auferō ("taken away")
vocative	Deus	vocative←vocō ("call")

Tē accusative/(ablative) singular of tū(親しい)あなた s.te

'er-go 2音節なので頭にアクセントがあります。 Cogito ergo sum.

'quae-su-mus first-person plural present active indicative of quaesō 請う

短母音だけの3音節なので頭にアクセントがあります。

s.querer←L. quaerō=(old desiderative?): quaesō

'tu-īs dative plural of tuus あなたの 2音節なので頭にアクセントがあります。 s.tu

'fa-mu-līs 後ろから2番目が短母音だから、もう一つ前にアクセントがあります。

dative/ablative plural of famulus (servant)

dative/ablative plural of famula (female servant)

famulus→familia(family)

'sub-ve-nī? second-person singular present active imperative of subveniō

下へ来る(支える)、後ろから2番目が短母音なので、もう一つ前にアクセントがあります。

→ f.souvenir「記憶、土産」、s.subvenir「補助する、費用を負担する」

'quōs accusative masculine plural of quī, whom 1音節

pre-ti-'ō-sō precious 後ろから2番目が長母音だからそこにアクセントがあります。

f. précieux/précieuse, s. precioso/a

'san-gui-ne ablative(奪格) singular of sanguis f.sang, s. sangre

すべて短母音なので後ろから3番目、つまり語頭にアクセントがあります。

re-dē-'mis-tī second-person singular perfect active indicative of redimō 償う(つぐなう)

f. rédimer, s.redimir

miの次に子音が2つあるので、miにアクセントがあります。



申し込み、お問合せ

聖グレゴリオの家事務所 〒203-0004 東京都東久留米市氷川台 2丁目 7-12

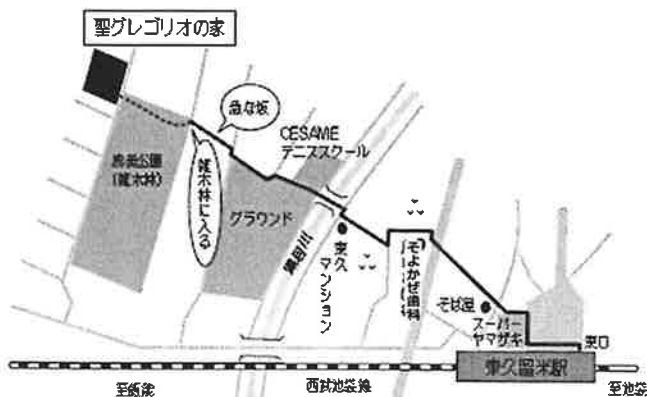
tel. 042-474-8915 <http://www.st-gregorio.or.jp>

内容については山野辺(企画立案)までお問い合わせください。

山野辺暁彦 〒192-0914 八王子市片倉町 888-44 tel. 042-635-3784 rpbjk640@yahoo.co.jp

お名前、学年、ご住所等連絡先を添えて6月末までにお申し込みください。(メール可)

チェンバロ、弦楽器等でご参加の方は楽器名もお知らせください。事前に資料等をお送りします。



池袋より西武池袋線「東久留米」駅下車
東久留米駅「東口」より徒歩10分またはタクシー5分
〒203-0004 東久留米市氷川台2-7-12

聖グレゴリオの家は、1979年9月に独立宗教法人として故グレオン・ゴールドマン神父(フランシスコ会)によって設立され、祈り、研究、教育という3本の柱から成り立っています。その目的は、祈り、典礼を祝いながら、教会音楽の研究、保存と普及、教育を行うことにあります。

聖グレゴリオの家賛助会

故グレオン・ゴールドマン神父によって創設された当研究所は、神父の母国ドイツや諸外国からの物心両面の支援に頼って参りました。しかしながらグレオン神父の帰天と援助をして下さった方の高齢化、世代交代に伴い、その支援は必然的に細りつつあります。海外の支援に頼るのではなく日本社会の中で聖グレゴリオの家の活動を支えていくために賛助会は2009年に発足しました。